

2021年11月20日 第10回オープンミーティング報告

2021年11月20日、オンラインで運営委員会をした後、公開のオンライン・ミーティングを開催しました。

テーマ：学校におけるP4Cとの付き合い方

報告者：城野 知佐（大阪教育大学附属平野小学校教員）

司会：金澤 正治

時間：午後3時～午後4時30分

参加者10名（メンバー5名+5名）

学校におけるP4Cとの付き合い方

もっばらの関心事

P4C的な、図工的な

P4Cをしますよとは言わない

色々なことに絡めながら、P4C的なことをしている。それを子どもの変容で見せる。

先生が忘れているなどと思うこと

?をもつこと

?を育てること

?に対する答え（カモシレナイ）を授業する

世界の面白さに驚く

大テーマ

○○を育てる。

わかっているけど、芽が出たら感動する。

おじゃべりできる。

大人でも、知っているつもり。実感すると感動して写真を撮りたくなる。探求の芽。

知ったつもりにならない。

知ってても、驚く。これはどういうことだろうか。

子どもたちは想像を超えた何かをいつも期待しているのではないか。学校はそれを無くす性質がある。

P4Cや図工がこれができる。

コミュニティボールを作る

外部の人（実習生）が来たときには、子どもにコミュニティボールが何かを説明させる。

4月

子どもの変容で見せよう

図工で何する？

絵を描く

・・・

幼稚園でコンクールのための絵を描かされていた。

そうですかね。（お母さん、そうですわ。）

10月

走っている絵を描くために、走ってみた。走ってみてわかったことがある？

しんどいこと、走っている足の運び。

さらさらと描いている

何で描けるようになっているの？

P4C的な活動を通じて、自分からやるようになっている。

P4Cの説明をするのではなく、子どもの変容を説明する。

保護者の反応は？

Q：学校が子どもの？を消しているとは？

A：学校生活を送ってくる中で、変わってくる。やることがたくさんあって、何でと思っても、とりあえずやっておこうというじょうきょう。子どもはやらされているという感覚を持っている。これをやりましょう、ゴールが分かっていることをやらせている。

Q：高校生は「かもしれない」ということは不安でしかない。

Q：どの授業でどういう問いでやったかという実践例は

A：道徳、教材を読んで疑問に思ったこと、問い出しをして、その問いについて。特活では、生活のことから問いを出して、それを議論する。図工では、鑑賞などで、議論する。題名を考えたりする。国語、読後の感想だけでなく、？を書く。それを貼っておいて、今日はこれはこの？を議論する。算数、問題をはじめに提示、それからみんなで目当てを皆で考える。最初の目当てからあまりずれないようにする。

Q：道徳の授業だと全部の授業でP4Cをするのか。

A：道徳では全部している。

Q：教材によってはどうか、45分内でできるのか。

A：45分で終わる。道徳でP4Cをするという感覚はない。他の教材でもP4C的なこともしている。単元・項目に関してどうと考えたことはない。先生が見学して面白かったということのを反省したら、何かが見えるかもしれない。

Q：他の先生がしているか。

A：他の先生は教えようとする人が多いのではないかな。

K：校長は好きで、見に来てくれる。図工をしていた。先輩の授業をさせてもらう。音楽の先生。ここまで行かなければいけないということがないからではないか。P4C的なことが好きなのかな。(P4Cをしない他のクラスは算数と理科の先生だった)

Q：主体的で対話的な深い学びと関係があるのか。

A：これは、こぎれいな言葉ではないか。P4Cは深い学びと言える。頭を結構動かしている。お客さんにはなれない。普通の授業では寝ていることもある。P4Cだと寝かせてくれない。図工や音楽はそういう感じ。馬家の描き方を教えても、深い学びにはならない。想像を超えた意見がたくさん出てくる。これが面白い。指導要領ではいろいろ書いてあるが、うまくいっているとは言えない。

A2：主体的になるということは、学校に都合が悪いのではないかな。対話ということでも、先生は対話は苦手。対話によって変容していく。深いということは、遺物だったものを入れて学校を変えようとしているのか。単なるスローガンではないのか。P4C実際にそれを見せてくれる、変容は楽しめる。P4C的なものと

オーストラリアのP4Cの教員研修の紹介

記録を取る。幼稚園のドキュメンテーション。子どもに学びを返す。他者との交流、学びの共有

360度カメラで授業の記録を取る

記録をどう使っているのか。

道徳以外の教科